

本時のねらい

- ・開脚跳びの5つのポイント（助走、ふみ切り、着手、とびこし、着地）を意識して、跳ぶことができる。
- ・自分と友だちの開脚跳びの動画を見て、5つのポイントをもとに改善できる所を伝え合い、よりよい方法や工夫をすることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- （導入） 前回、撮影した自分の開脚跳びと見本の開脚跳びの動画を比較する。
⇒動画を比較することで、視覚的に自分の課題を捉えやすい。
- （展開） 友だちが跳んだ動画と見本の開脚跳びの動画を比較し、改善できるところを伝える。
⇒改善できるところを伝え合うことで、よりよい練習方法を相談しながら、より良く跳ぼうとする工夫をすることができる。
- （まとめ） Sky Menu Class 発表ノートに授業を通して考えたことや自分ができたこととしてまとめる。
⇒授業を通して考えたことをまとめることで、次回以降の技能と、意欲向上につなげることができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Sky Menu Class の発表ノート
- ・大型ディスプレイ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の開脚跳びと見本の開脚跳びを比較する。 ・どんな違いがあるか発表する。 ・自分が取り組む課題を確認する。 ○めあてを確認する。「大きな開脚とびをマスターしよう！」 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を比較することで、視覚的に分かりやすく、自分の課題を見つけやすくなる。また、5つのポイントを意識して動画を見ることで、自分の課題がより明確になる。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○開脚跳びを練習する。 ・5つのポイントの中で、「跳び越し」の「腰が上がり体と腰が水平」になっているかどうか確認する。 ・友だちの動画を撮影する。 ・苦手な児童は基礎的な技能習得をめざす。 ○撮影した動画と見本の動画を比較する。 ・5つのポイントと跳んでいる時の腰の位置が水平かどうかを確認する。 ・友だちの課題、改善できるところ、よりよい練習方法がないか考え、伝え合う。 ○友だちのアドバイスを参考に、もう一度開脚跳びの練習をする。 ・気付いた課題を意識して、練習する。 ○5つのポイントを意識して跳べる児童が全員の前で演技する。 ・演技した児童は自分が意識したポイントや工夫した練習方法など、考えて実践したところを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の開脚跳びと今回の大きな開脚跳びを比較することもできるので、自分の課題をよりスムーズに発見することができる。 ・動画を比較することで、改善できるところなどを視覚的に分かりやすく伝えることができる。それにより、より良い練習方法や工夫を考える手助けになる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○発表ノートに自分ができたことや考えたことをまとめる。 ・特に5つのポイントに基づいて自分ができているかどうかを考える。 ・ふりかえりの内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートにデータを積み重ねてまとめていくことで、自分の成長を継続的に記録できる。単元をふり返った時に、自分の成長の経過をより明確に感じることができる。

1人1台端末を活用した活動の様子



前時と本時の活動内容の違いを全体で確認している場面（導入）



撮影した動画を見て、改善点を伝え合っている場面（展開）



本時のふりかえりをタブレットにまとめている場面（まとめ）

児童生徒の反応や変容

- ・自分が跳んでいる動画をもとに、互いの改善点を伝え合うことで、自分の課題を客観的に捉えることにつながった。
- ・ふりかえりに動画を添付することで、練習前と後の変化を実感できた。見学者も動画撮影に参加することで、共に学びを得ることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・跳んだ直後、改善点を動画をもとに確認させることで、課題と成果を視覚的に捉えさせることができる。
- ・ふりかえりに動画を添付させたことで、教員がもう一度確認したい時に活動の様子を見ることができ、評価に生かすことができる。